

「お前たちは本当に成長した」。敗戦後、永山の西悠介監督(25)は、選手たちに語りかけた。初めて3年間育てた選手たちが砂ぼこりにまみれて奮闘する姿に、目頭が熱くなった。

西監督は早実出身。選手として甲子園に出場する夢はかなわなかった。「監督として子供たちを連れて行きたい」。2009年、教諭になり永山へ意気込んで着任した。

しかし、当時の野球部員たちは、茶髪にピアス姿が大半。練習もまじめにやらなかった。あの選手は指導に対し、「だるい」「面倒くさい」を連発し、「お前とは野球をやりたくない」とどなった後、3週間練習をボイコットした。冬には3人しか練習

永山 熱意通じた「あきらめない」

習に出来ないこともあった。

西監督は「自分のやり方が間違っているのか」、「生徒たちにあわせた方がいいのかも」と自問自答した。それでも「練習に来る部員のために頑張ろう」と奮起。練習に出来ない生徒を呼び出し、最後まで野球をやりきる大切さを話した。意識向上のため、早実との合同練習も実施した。

1-9球を投げきった宮倉拓斗投手(3年)も、無断で練習を

休んだり、服装の注意を受けたりしていた一人だ。「監督にあきらめないことの大切さを教えてもらった。恩返しに勝利をプレゼントしたかったのに」と人目をはばからず涙した。

試合後、選手たちから「今まで色々迷惑をかけました」と謝罪を受けた西監督は「これからも生徒を信じて野球をしていきたい」と前を向き、指導者として新たな一歩を踏み出した。

(石原宗明)



試合後、宮倉投手に声をかける西監督(右)